

中期目標の達成状況に関する評価結果

岡山大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)		

評価結果

《概要》	5
《本文》	9
《判定結果一覧表》	21

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

人類社会は、知の創成と継承を連鎖させることにより発展を遂げてきた。21世紀以降において、人類社会がさらに安定的かつ持続的な発展を遂げるためには、より高度で確固とした知識基盤を構築しなければならない。今後社会が必要とする知的基盤は、高度性と共に、複雑化する社会構造や多様な価値基準にも適応しうる新たな知の体系の創成によって初めて構築されるものである。岡山大学は、公的な知の府として、「高度な知の創成と的確な知の継承」を理念とし、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」を基本目的として掲げ、人類社会の発展に寄与する。

岡山大学は、基本目的の達成に向けて、第一期中期目標・中期計画期間において、教職員の活動評価システムを整備し実施に移した。このことにより、大学の基本機能である、教育・研究・社会貢献はもとより管理も含めた業務を、効率的かつ的確に推進するための体制を確立した。第二期中期目標・中期計画期間においては、これを基盤として、国際的に上位な研究機関となることを指向すると共に、研究成果を基礎として、社会の多様な領域において主体的に活躍できる有為な人材を育成することにより基本目的を達成する。

社会を変革する原動力は学術研究成果により誘発される様々なイノベーションであるが、それを実社会に定着発展させるためには優れた人的資源の存在が不可欠となる。岡山大学は、我が国有数の総合大学として、学士レベルにおいては、個別領域における専門性のみならず自立した幅広い基礎的資質と能力を備えた人材を育成するために、各教育課程における学習成果の検証を伴う学士教育を実施する。

学術発展の歴史的経過を大観すれば明白なように、今後人類社会が必要とするのは、個別専門領域の深化だけではなく、異分野にまたがる学際性やその融合によって生み出される多様な新領域の創成である。岡山大学は、その特色である総合大学院教育体制を活用し、高いレベルの学際性・融合性を指向した研究を推進し、その成果を基礎にして様々な新しい学際領域において先導的な資質や能力を有する特色ある高度専門職業人を養成し社会の要請に応える。

岡山大学は、以上の教育研究活動を通じて、「学都・岡山大学」として中国・四国地域における中核的な学術拠点となることをその総合目標とする。

1 本学は、昭和24年に、官立旧制岡山医科大学、官立旧制第六高等学校等を母体として、5学部を擁する新制の総合大学として設立された。現在11学部7研究科を擁する我が国有数の総合大学として発展を遂げている。これら学部・研究科は、JR岡山駅から徒歩圏の2大キャンパスにあり、好適な教育・研究環境を備えている。

2 本学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」を理念とし、目的である「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」実現のため、第2期中期目標期間では、国際的に上位な研究機関となることを指向すると共に、研究成果を基礎として、社会の多様な領域において主体的に活躍できる有為な人材を育成することを基本目標としている。平成23年4月に就任した森田現学長のリーダーシップの下、国際的な研究・教育拠点としての『美しい学都』を目指して『森田ビジョン』を掲げて大学改革に取り組んできた。

さらに、平成26年度は、大学改革担当専任の理事・副学長を新設し、大学改革担当学長補佐3名と大学改革推進室を配し、大学改革を加速する体制を本格的にスタートさせた。その結果、「大学教育再生加速プログラム」、「スーパーグローバル大学創成支援事業（グローバル化牽引型）（以下SGU）」、「平成26年度国立大学改革強化推進事業」に採択され、大学改革を加速させている。

3 教育改革では、教育における3つの方針（ポリシー）を、大学全体、全学部、全研究科で定め公表し、学生が自身の学習成果を可視化できる「学士課程教育構築システム(Q-cum system)」を独自に開発した。また、国際バカロレア(IB)入試の学士課程全てでの導入、マッチングプログラム(MP)コースでIB入試秋入学生の受入、教養英語の充実とグローバル人材育成特別コースの創設、L-café(エル・カフェ)の新設による語学の自主学習環境の充実等に取り組んだ。さらに、平成26年度、高等教育開発推進機構を設置し、平成27年度科目ナンバリングの導入、平成28年度には、60分授業・4学期(クォーター)制導入、「より純化された教養教育」をめざす新体制での実施、教育関係の2機構・7全学センターの改組・統合・廃止による「全学教育・学生支援機構」の新設に向けて大詰めの準備を進めた。この間、平成23年度の工学部改組に続き、文系3学部のカリキュラム改革の方針を定め、経済学部のユニット・モジュール制等、一部は平成28年度から開始される。

4 大学院レベルでは、平成24年度自然科学研究科、環境生命科学研究科の改組を契機に、先進基礎科学特別コースと先進異分野融合特別コースを設け、また若手研究者キャリア支援センターを新設した。さらに、専門職学位課程を除き、平成25年度中に策定したコースワークを中心とした大学院教育を平成26年度に開始した。研究科横断型教育、異分野融合型教育を促進するため大学院学則を改正し、特定分野又は特定課題に関する授業科目を体系的に履修させる教育課程として、「防災安全・安心に関する人材育成特別プログラム大学院コース」と「大学院生殖補助医療学コース」の2つを新たに開始した。平成27年度に自然科学研究科に生命医用工学専攻を新たに設置し、新しい医療機器、診断治療技術、創薬開発技術の研究開発をリードできる人材の育成を目指している。

5 研究面では、「地球・惑星物質科学研究拠点」に指定された地球物質科学研究センター、及び「植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点」に指定された資源植物科学研究所の2つの共同利用・共同研究拠点を有し、平成25年度までに「研究大学強化促進事業」支援対象機関、「臨床研究中核拠点病院」(現在の名称:臨床研究品質確保体制整備事業)に採択されるなどリサーチ・ユニバーシティの陣容を整えた。これらを受けて、研究特区「グローバル最先端異分野融合研究機構」を創設し、国内外の卓越した研究者が集う『創造的国際学都』を目指している。平成26年度「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」の採択を受け、平成27年度からは、日本医療研究開発機構(AMED)の支援を受け、「革新的医療技術創出拠点プロジェクト」を進めている。また、地球物質科学研究センターの改組と、物理学と基礎生命科学の研究基盤強化を目指す新研究所の設置に向けて準備を進め、平成28年度から、それぞれ「惑星物質研究所」、「異分野基礎科学研究所」として発足した。

6 社会(地域)貢献の推進では、地域総合研究センターを新設して、学都研究の推進、国・地方行政に対するシンクタンク機能の発揮とともに、グローバル実践型社会連携教育プログラムの体制整備を通して、学生の実践知の育成を目指している。さらに平成25年度の岡山大学Alumni(全学同窓会)、国際同窓会の創設により、留学生を含む同窓生ネットワークの強化を図った。

7 国際化の取組としては、グローバル人材育成特別コース開設にともない、グローバル人材育成院を創設したほか、国際センターを改組強化して、平成26年度に「グローバル・パートナーズ」として体制整備を図った。さらに、外国人留学生・研究者受入のため国際交流会館及びシェアハウスの新設、キャンパス・アジアプログラム、アセアン大学連合(AUN)、エラスムス・ムンドゥス事業(BEAM及びEASEDプログラム)、岡山大学ユネスコチェアの設置認可の更新、国立六大学国際連携機構(SUN)を通じたミャンマー教育支援プロジェクトへの参画に加え、英語による研究成果発信(e-Bulletin)の充実等に取り組んだ。

8 医療系分野では、心肺肝の移植認定施設として、わが国屈指の実績を重ねるとともに、人材育成では、文部科学省の支援を受け「脱ガラパゴス!—医学教育リノベーション—」、「地域を支え地域を科学する総合診療医の育成」、「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」事業を進め、岡山県寄付講座「地域医療人材育成講座」、岡山市寄付講座「地域医療学講座」を設け地域医療教育を充実させた。

[個性の伸長に向けた取組]

○社会の多様な領域において主体的に活躍できる有為な人材，真のグローバル人材を育成するため，全国の国立大学に先がけて，学士課程全てで IB 入試を導入した。また MP コースで IB 入試により秋入学を実施している。

(関連する中期計画) 計画 1-1-1-2, 計画 1-1-1-3

○各教育課程における学習成果の検証を伴う学士教育を実施するため，Q-cum system を独自に開発し，学士力獲得の状況（アウトカム）の可視化を実現するとともに，学生がディプロマ・ポリシー上の学士力獲得のために，大学が適切な教育を提供しているかを検証するツールとなっている。

(関連する中期計画) 計画 1-1-2-2, 計画 1-1-4-1

○長年のミャンマー医療支援・医学系学術支援を背景に，国立六大学国際連携機構（SUN）を通じた「ミャンマー医学教育強化プロジェクト」に積極的に参画し，留学生・研究者を受け入れている。さらに平成 26 年度文部科学省「留学生コーディネーター配置事業」で，本学がミャンマー担当として採択された。

(関連する中期計画) 計画 1-1-1-5, 計画 3-2-1-1, 計画 3-2-2-1

○国際的な研究・教育拠点としての「美しい学都」を目指し，平成 24 年 9 月独自財源でユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター（URA）を採用した。URA は，執行部の研究ブレイン組織として，平成 25 年度採択された文部科学省「研究大学強化促進事業」などを重点課題とし，「創造的国際学都」を目指して戦略的に活動している。その後，SGU 採択を受け，5U 戦略として他の領域にも拡大した。

(関連する中期計画) 計画 2-2-1-1, 計画 2-2-3-2, 計画 2-2-5-1

○本学の上記基本目的に向けて，21 世紀 COE プログラム「循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント」（平成 15 年度～19 年度）などの拠点形成事業の推進と並行して，平成 19 年度にユネスコから「持続可能な開発のための教育(ESD)」の推進を目的とする「岡山大学ユネスコチェア」の設置認可を受けた。岡山大学や地域の ESD 取組はユネスコから高く評価され，岡山市は平成 26 年秋の「ESD に関するユネスコ世界会議」の開催地に選ばれ，本学ユネスコチェアは，平成 27 年 3 月にユネスコから設置認可の更新を受けた。

(関連する中期計画) 計画 1-2-3-2

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

○東日本大震災復興支援プロジェクトとして，「オオムギ育種による塩害農地対策事業」と「野生植物による放射能汚染農地対策事業」の 2 件を，資源植物科学研究所等で実施している。

○東日本大震災復興「学・職・住」総合学生支援制度を設け，経済学部夜間主コース進学希望者を総合的に支援している。本制度により，2 名が本学で勉学に励んでいる。

○本学学生・教職員を中心に「おかやまバトン」を結成し，東日本大震災で被災した子どもたちを岡山に招くなど交流を続け，被災地と岡山の架け橋となって活動した。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、岡山大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		2	2	
② 教育の実施体制等に関する目標	良好		3	1	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好		1	1	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	良好		2		
② 研究実施体制等の整備に関する目標	おおむね良好		1	4	
(Ⅲ) その他の目標	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好		1	1	
② 国際化に関する目標	良好	1	1	1	

＜主な特記すべき点＞

個性の伸長に向けた取組

- 岡山大学・中国東北部大学院留学交流（O-NECUS）プログラム等の実施や優秀な留学生確保のため、中国及びベトナムに海外現地拠点を置き、教員を派遣し入学希望者とのマッチング、来日前の入学者選抜試験を実施している。また、国際同窓会と協力して海外支部のうちインドネシア等7か国11支部を国際連携所に認定することで、海外との交流機能を拡大している。さらに、日本留学のプラットフォームの構築等、ミャンマーでの拠点形成を進めており、同国教員9名の博士課程学生としての受入や、平成27年10月入学での国費留学生6名の受入等を行っている。（中期計画1-1-1-5）
- 平成25年度入学生から、あらかじめ設定された教養、専門性等の5つの基本的な能力（学士力）の重みに応じて、修得科目の成績から達成度を数値化・可視化する岡山大学学士課程教育構築システム（Q-cum system）を運用している。平成26年度には同システムを利用して各学部学科の学年ごとの学士力達成度（DPポイント）の平均値を示し、学習到達度評価の実施と修学指導方法への活用を検討することで、教育課程改革等の教育改善につながっている。（中期計画1-1-4-1）
- 国連による持続可能な開発のための教育（ESD）の取組の推進を目的とするユネスコチェアの設置認可を受けており、国内外の高等教育機関と連携しながら、平成20年度設置のアジア環境再生特別コースやESD・ユネスコスクール研修会の企画・運営等の取組を継続して実施している。特に環境生命科学研究科アジア環境再生特別コースにおいては、「ESD実践論」を開講するとともに、「プロジェクト実習」では大学院生をベトナム、マレーシア、カンボジア等へ派遣し実習を行うことで、ESDの素養を備えた高度環境人材を育成している。（中期計画1-2-3-2）
- 教育研究プログラム戦略本部において、平成22年度にプロジェクト研究部門を設置して大型プロジェクト研究の企画等を支援しているほか、平成27年度末時点で外国人2名を含む8名のリサーチ・アドミニストレーターを配置している。また、研究者情報等をデータベース化し研究戦略立案に役立つ仕組みを構築しており、平成25年度には強みのある研究分野である物理学及び基礎生命科学を軸としたグローバル最先端異分野融合研究機構を設置し、重点分野の研究に取り組んでいる。（中期計画2-2-1-1）
- 平成23年度に中長期的な国際戦略を定めた国際戦略ビジョン21を策定し、留学生受入拡大等の数値目標を掲げ、国際化推進の方向性を明確にしている。また、これまでに約4,000名の留学生が在籍した実績を基に、平成23年度に国際同窓会を設立しており、平成27年度末時点で46か所の地域別支部を立ち上げ、国際的な交流ネットワークを拡大している。（中期計画3-2-1-1）

<復旧・復興への貢献・支援活動等に関する顕著な取組>

- 東日本大震災復興支援プロジェクトとして、「オオムギ育種による塩害農地対策事業」と「野生植物による放射能汚染農地対策事業」の2件を、資源植物科学研究所等で実施している。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○留学交流プログラムの実施及び海外現地拠点の設置による優秀な留学生の確保

中期目標(小項目)「アドミッション・ポリシーに関する目標 高度化・複雑化する社会において主導的に活躍できる人材、すなわち、高度な専門知識とともに豊かな人間性を併せ持つ人材の育成を目指す。その実現のため、勉学意欲のある優秀な学生を国内外から求める。」について、岡山大学・中国東北部大学院留学交流(O-NECUS)プログラム等の実施や優秀な留学生確保のため、中国及びベトナムに海外現地拠点を置き、教員を派遣し入学希望者とのマッチング、来日前の入学者選抜試験を実施している。また、国際同窓会と協力して海外支部のうちインドネシア等7か国11支部を国際連携所に認定することで、海外との交流機能を拡大している。さらに、日本留学のプラットフォームの構築等、ミャンマーでの拠点形成を進めており、同国教員9名の博士課程学生としての受入や、平成27年10月入学での国費留学生6名の受入等を行っている。(中期計画1-1-1-5)

○修得科目の成績から達成度を数値化・可視化するシステムの導入

中期目標(小項目)「成績評価に関する目標 成績評価基準の検証を行い、学習到達度に力点を置き、厳格な成績評価を実施し、教育の質を保証する。」につ

いて、平成 25 年度入学生から、あらかじめ設定された教養、専門性等の 5 つの基本的な能力（学士力）の重みに応じて、修得科目の成績から達成度を数値化・可視化する岡山大学学士課程教育構築システム（Q-cum system）を運用している。平成 26 年度には同システムを利用して各学部学科の学年ごとの学士力達成度（DP ポイント）の平均値を示し、学習到達度評価の実施と修学指導方法への活用を検討することで、教育課程改革等の教育改善につながっている。

（中期計画 1-1-4-1）

○文学部における副専攻コースの設置

文学部において、外国語の運用能力を高めるために、ドイツ語、フランス語、中国語の副専攻コースを設けており、平成 23 年度から平成 27 年度における入学生のうち、7 割以上がいずれかの副専攻コースを履修している。

（現況分析結果）

（特色ある点）

○国際バカロレア入試の実施

中期目標（小項目）「アドミッション・ポリシーに関する目標 高度化・複雑化する社会において主導的に活躍できる人材、すなわち、高度な専門知識とともに豊かな人間性を併せ持つ人材の育成を目指す。その実現のため、勉学意欲のある優秀な学生を国内外から求める。」について、平成 25 年度から国際バカロレア（IB）入試（マッチングプログラムコース）により秋入学生を受け入れている。また、IB 入試を拡充・発展させ、募集定員の半分を留学生とし秋入学に対応した「グローバル・ディスカバリー・プログラム」の平成 29 年 10 月設置に向け、平成 27 年度にアドミッション・ポリシーを公開するなど取組を進めている。さらに、平成 26 年度に文部科学省の大学教育再生加速プログラム（AP）に採択され、IB 教育の調査研究及び入試広報のため国内外の学校訪問を行い、調査研究の成果を発信するなどして他の国立大学等に還元している。（中期計画 1-1-1-2）

(2) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した3項目のうち2項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された2計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○事務職員の質向上に向けた取組の推進

中期目標(小項目)「教職員配置に関する目標 岡山大学の基本的教育目標を達成するため、また、新たな学問の展開や社会状況に則した教育を行うため、適切な教職員配置を行う。」について、事務職員の質向上を図る取組として、毎年度150名から300名程度が参加する桃太郎フォーラムを実施する中で、スタッフ・ディベロップメントをテーマとして、事務職員の企画による分科会等を行っている。また、平成24年度から若手事務職員有志の勉強会である若手職員塾を実施しており、受講生は年7回の受講に加え、翌年度の勉強会の企画を行っている。(中期計画1-2-1-1)

○国連による持続可能な開発のための教育(ESD)の取組の推進

中期目標(小項目)「教育の質の改善に関する目標 教員の教育資質向上のため、教育活動を適切に評価するとともに、教育サービスの受容者である学生の教育満足度を検証し、その結果を教育改善に反映できるシステムを構築する。」について、国連による持続可能な開発のための教育(ESD)の取組の推進を目的とするユネスコチェアの設置認可を受けており、国内外の高等教育機関と連携しながら、平成20年度設置のアジア環境再生特別コースやESD・ユネスコスクール研修会の企画・運営等の取組を継続して実施している。特に環境生命科学研究科アジア環境再生特別コースにおいては、「ESD実践論」を開講するとともに、「プロジェクト実習」では大学院生をベトナム、マレーシア、カンボジア等へ派遣し実習を行うことで、ESDの素養を備えた高度環境人材を育成している。

(中期計画1-2-3-2)

(特色ある点)

○全学 60 分授業・4 学期制の導入に向けた教育システムの再構築

中期目標（小項目）「教職員配置に関する目標 岡山大学の基本的教育目標を達成するため、また、新たな学問の展開や社会状況に則した教育を行うため、適切な教職員配置を行う。」について、大学のグローバル化及びアウトカムに重点を置く教育を推進するため、高等教育開発推進機構を中心に平成 28 年度からの全学 60 分授業・4 学期制の導入に向け学事暦、教育方法・内容等の見直しを進めている。60 分授業・4 学期制を活かしたカリキュラム提案に対して経費支援を行うなど、全学教育システムの再構築を進めている。（中期計画 1-2-1-2）

○教養教育改革の基本方針の策定及び新カリキュラムの制定

中期目標（小項目）「教育の質の改善に関する目標 教員の教育資質向上のため、教育活動を適切に評価するとともに、教育サービスの受容者である学生の教育満足度を検証し、その結果を教育改善に反映できるシステムを構築する。」について、平成 28 年度から全学 60 分授業・4 学期制を導入することを決定するとともに、教養教育の理念及び改革の要点を定めた教養教育改革の基本方針を策定して平成 28 年度以降の教養教育課程案を編成している。また、夜間主コースを除く全学部の専門教育科目においても、60 分授業・4 学期制に対応した教育課程の整備とともに、新カリキュラムマップ制定等の教育改革を進めている。

（中期計画 1-2-3-3）

○チーム医療・シミュレーション教育の推進

中期目標（小項目）「医療教育の実施に関する目標 新しい医療教育としてのチーム医療教育、地域医療教育の体制を整備する。」について、医療教育統合開発センターにおいて、医学系、歯学系、保健学系、薬学系の医療系人材養成の実施状況の点検・評価や、より有機的な教育プログラムの企画・立案を行っており、医療技術トレーニングセンター等、シミュレーション教育や臨床能力のスキルアップのための設備を整備し、チーム医療・シミュレーション教育を進めている。（中期計画 1-2-4-1）

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

○学生への効果的な経済支援の実施

中期目標(小項目)「生活支援に関する目標 活力あふれる学生生活を送らせるため、正課の学習支援だけではなく、健康面や経済面での生活支援、さらには課外活動支援、キャンパス環境整備等を充実させる。」について、学生へ効果的な経済支援を実施するための調査・検討を行い、平成25年度及び平成26年度に成績優秀学生奨学金制度の見直し、平成26年度に学内雇用制度の整備等を実施している。特に学内雇用制度においては平成26年度に41名、平成27年度に42名を雇用するとともに、授業料免除判定時に当該収入を控除するよう取扱基準を改正している。また、平成22年度から研究奨励金支援制度を導入しており、平成27年度は386件について、大学院生の国際学会等での発表を支援している。

(中期計画 1-3-1-2)

○海外からの研究者招へいや留学生の受入拡大に向けた環境整備

中期目標(小項目)「生活支援に関する目標 活力あふれる学生生活を送らせるため、正課の学習支援だけではなく、健康面や経済面での生活支援、さらには課外活動支援、キャンパス環境整備等を充実させる。」について、海外からの研究者招へいや留学生の受入拡大に向けて、平成22年度の外国人宿泊施設の国際交流会館、平成24年度の共同研究者向けの倉敷ゲストハウスの建設や、平成27年度の国際学生シェアハウス等の留学生宿舎の建設・整備を行っている。国際交流会館の年平均の入居者数は約132名、留学生宿舎の年平均の入居者数は約239名となっている。(中期計画 1-3-1-3)

(特色ある点)

○就職活動を支援する学生リーダーの育成

中期目標(小項目)「就職支援に関する目標 社会の経済状況や学生の就職状況などの情報把握並びに分析を行い、総合的かつ戦略的に活動できる就職支援体制を充実させる。」について、平成22年度に学生主体の企画を実現するチームとして「岡プロ!」を立ち上げており、継続的な活動を通して商品企画等の成果が

あがっている。また、就職活動を学生が支援するピアサポート体制として、平成23年度に学生ボランティアを「就活オ・レ!」として組織したほか、就活リーダーズ合宿を毎年度行い、就職活動を支援する学生リーダーの継続的な育成に取り組んでいる。(中期計画 1-3-2-2)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○強みと分析された研究分野を中心とした研究拠点の構築

中期目標(小項目)「目指すべき研究の方向と水準に関する目標 特色ある学術領域の研究を一層推進して深化させるとともに、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤とした学際・融合領域における新分野創成を目指す。なお、特有の分野では、我が国有数の活力ある学術研究拠点を構築する。」について、平成23年に著名な学術誌がその年の最も発展的な研究に与える賞を受賞した、光合成メカニズムの解明等、強みと分析された物理学及び基礎生命科学を中心に研究拠点を構築、強化しており、平成25年度に研究特区としてグローバル最先端異分野融合研究機構を設置し、既存の拠点を極限量子等の3分野に再編成し、人員を重点配置している。(中期計画2-1-1-1)

○企業等との組織対応型連携研究の推進

中期目標(小項目)「成果の社会への還元等に関する目標 大学において創出された研究成果は社会共有の財産であるとの観点から、岡山大学の研究成果を広く社会に積極的に還元し、地域社会や国際社会の発展および我が国の産業の振興に貢献する。」について、共同研究や連携活動で実績のある企業約400社を岡大パートナー企業として登録し、企業等外部機関との組織対応型連携研究を推進している。また、共同研究のスタートアップ支援事業であるプレ共同研究支援事業

等の取組を進めており、知的財産収入は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の約5,800万円から第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の約1億900万円へ増加している。（中期計画2-1-2-2）

（特色ある点）

○国際的な技術移転の推進

中期目標（小項目）「成果の社会への還元等に関する目標 大学において創出された研究成果は社会共有の財産であるとの観点から、岡山大学の研究成果を広く社会に積極的に還元し、地域社会や国際社会の発展および我が国の産業の振興に貢献する。」について、知的財産の海外権利の確保に向けた関連活動の強化を図るため、平成24年度から特任教授を米国に1名配置しており、国際的な技術移転に関わる会議への参加や海外の技術移転機関との連携等の取組により、特許の外国登録数は平成22年度の12件から平成27年度の31件へ増加している。また、国際産学連携及び国際戦略の新たな起点として、平成27年度に米国カリフォルニア州のNPO法人資格を有する岡山大学シリコンバレーオフィスを設置している。（中期計画2-1-2-3）

（2）研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

○大型プロジェクト研究の企画等の支援

中期目標（小項目）「柔軟な研究体制の確立に関する目標 異分野融合や学際的な新分野創出に資するため、学内部局等の枠を超えた研究を推進するための仕組みを構築する。」について、教育研究プログラム戦略本部において、平成22年度にプロジェクト研究部門を設置して大型プロジェクト研究の企画等を支援しているほか、平成27年度末時点で外国人2名を含む8名のリサーチ・アドミニストレーターを配置している。また、研究者情報等をデータベース化し研究戦略立案に役立てる仕組みを構築しており、平成25年度には強みのある研究分野である物理学及び基礎生命科学を軸としたグローバル最先端異分野融合研究機構を設置し、重点分野の研究に取り組んでいる。（中期計画2-2-1-1）

○優秀な女性研究者の確保に向けた体制整備

中期目標（小項目）「優秀な研究人材の確保・育成に関する目標 優秀な若手研究者の確保及び育成制度を充実させるとともに、女性研究者、外国人研究者等多様な人材が活躍しやすい環境を整備する。」について、平成 20 年度に採択された科学技術振興機構の自立的な研究環境整備促進事業は S 評価を受けており、その成果を踏まえ、全学的にテニユア・トラック制度の普及を促進し、第 2 期中期目標期間に計 159 名の教員を採用している。また、優秀な女性研究者を確保するため、平成 22 年度にスタートアップ支援や研究スペースの確保、メンター教員の配置を行うウーマン・テニユア・トラック制度を整備しており、平成 27 年度までに 19 名を採用、うち 10 名がテニユア教員として採用されている。

（中期計画 2-2-2-2）

（特色ある点）

○外国人研究者の受入環境の整備

中期目標（小項目）「優秀な研究人材の確保・育成に関する目標 優秀な若手研究者の確保及び育成制度を充実させるとともに、女性研究者、外国人研究者等多様な人材が活躍しやすい環境を整備する。」について、研究支援に関する外国人研究者のニーズを受け、国際交流会館等の宿泊施設の整備や、英語による事務手続きのサポートのため事務職員の語学能力を高める研修を継続的に実施している。また、平成 26 年度に国際センターをグローバル・パートナーズとして再編し、部局と連携した留学生の生活支援や研究者受入・派遣手続支援に関する業務を担当する学内リエゾン・オフィスを設置している。（中期計画 2-2-2-4）

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○中国地域の大学等との産学官連携活動の推進

中期目標(小項目)「地域社会との連携に関する目標 地方公共団体、経済団体等との連携を深め、中核的な学術拠点として岡山大学からの提言等を行う。また、大学発ベンチャーへの支援等地域経済の発展に資する。」について、平成20年度に文部科学省の産学官連携戦略事業(戦略展開プログラム)の採択により、中国地域の大学等16校で開始した中国地域産学官連携コンソーシアム(さんさんコンソ)では、ウェブサイトにより大学間で技術相談情報を共有するなど、事業終了後も継続して活動し、27校の連携活動に発展させている。

(中期計画 3-1-1-2)

(特色ある点)

○地域に関する研究等を軸とする社会貢献事業の実施

中期目標(小項目)「社会貢献に関する目標 岡山大学の知恵を地域社会へ生かすため、市民向け講座等、社会との関係を一層推進し、社会人教育の体制を強化する。」について、平成22年度から毎年度開催している「岡山大学知恵の見本市」による研究情報の提供、サイエンスカフェの開催、地域に関する研究等を軸とする社会貢献事業を、研究推進産学官連携機構及び地域総合研究センターを中

心に実施している。また、平成 26 年度に岡山市中心部のオフィスビルに「岡山大学・岡山市・市民連携まちづくり拠点西川アゴラ」を設置し、学生による調査等、地域と連携した活動を行っており、平成 27 年度は延べ 2,196 名が参加している。（中期計画 3-1-2-1）

（2）国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した 1 項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された 1 計画を含む。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○国際戦略ビジョン 21 の策定

中期目標（小項目）「国際交流・協力に関する目標 岡山大学が有する教育研究の強みを最大限活かすとともに、アジアをはじめ各地域の状況に柔軟に対応した質の高い国際交流・国際貢献を実施する。」について、平成 23 年度に中長期的な国際戦略を定めた国際戦略ビジョン 21 を策定し、留学生受入拡大等の数値目標を掲げ、国際化推進の方向性を明確にしている。また、これまでに約 4,000 名の留学生が在籍した実績を基に、平成 23 年度に国際同窓会を設立しており、平成 27 年度末時点で 46 か所の地域別支部を立ち上げ、国際的な交流ネットワークを拡大している。（中期計画 3-2-1-1）

（特色ある点）

○研究関連情報の国際発信の強化

中期目標（小項目）「外国人研究者の採用に関する目標 岡山大学が進める異分野融合研究には多様性が重要であるとの視点から、外国人研究者の採用を積極的に進める。」について、研究プロジェクトの外部評価委員の指摘を踏まえ、国際的な人材獲得のため、主要な研究成果やニュースを世界に向けて定期的に配信する電子成果集を刊行しているほか、平成 27 年度に英文ウェブサイトのリニューアルを行い、海外の研究者採用のための募集ページを開設するなど、研究に関連する国際発信を強化している。（中期計画 3-2-2-1）

○グローバル実践型教育の推進

中期目標（小項目）「国際競争力の強化に関する目標 徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引するための取組を進める。」について、グローバル実践型教育の推進のため、平成 27 年度に地域と教育（教育再生）等の 4 領域で合計 12 科目の実践型授業を実施したほか、全学から提案された授業の点検、調整等を行い、実践型教育の教養教育への本格導入の準備を進めており、平成 28 年度に 75 科目の実践型科目を実施することを決定している。（中期計画 3-2-3-1）

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
<p>アドミッション・ポリシーに関する目標 高度化・複雑化する社会において主導的に活躍できる人材、すなわち、高度な専門知識とともに豊かな人間性を併せ持つ人材の育成を目指す。その実現のため、勉学意欲のある優秀な学生を国内外から求める。</p>		良好	
1-1-1-1	ディプロマ・ポリシーを十分に達成できる有能な人材確保の方針を明確化し、受験生に周知する。	おおむね良好	
1-1-1-2	国内外から優秀な学生を受け入れるため、秋期入学の問題点や課題及び社会的ニーズ等を十分に調査・分析し、受入体制を整備する。	良好	特色ある点
1-1-1-3	【学士教育】 入学者選抜制度（AO入試、推薦入試、前期・後期日程入試、3年次編入試験）を検証し、継続的に入学者選抜方法を改善する。	良好	
1-1-1-4	【大学院教育】 学生の修了時点における学力や社会適応力及び大学院における教育効果を総合的に検証し、継続的に入学者選抜方法を改善する。	おおむね良好	
1-1-1-5	【大学院教育】 岡山大学の海外現地拠点等を利用して、来日前の厳格な入学者選抜を実施し、優秀な留学生確保の体制を整備する。	良好	優れた点
<p>教育課程に関する目標 高い見識を備え、社会において指導的な役割を担い得る人材の育成を目標とし、課題探求能力と課題解決能力の習得を徹底する。学士教育では、コミュニケーション力を向上させ、常に学生の資質や社会からの要請に即した教育課程の最適化を推進する。大学院教育では、高いレベルの学際性やその融合を追求する総合大学院として、教育の質に重点を置き、高度専門職業人養成のための教育課程を充実させる。</p>		おおむね良好	
1-1-2-1	【学士教育】 多様な入試制度に対応して、リメディアル教育や初年次教育を充実するとともに、学生の学部間移動なども含めて、柔軟な教育体制を整備する。	おおむね良好	
1-1-2-2	【学士教育】 学士力を向上させるため、学士教育課程全体を総合的に検討するなかで、教養教育と専門教育の意義づけを明確にし、それに対応した体系的な教育課程を構築する。	良好	
1-1-2-3	【大学院教育】 博士前期（修士）課程および博士後期（博士）課程の双方において、総合大学院の特色を生かし、学士課程カリキュラムと有機的に連携し、学部から大学院までを考慮に入れたカリキュラムの再編整理を行う。なお、カリキュラムの再編は、各研究科あるいは各専攻分野における急速な技術進歩や研究を取り巻く時代状況の変化や国際化に迅速に対応可能なものとする。	おおむね良好	

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
1-1-2-4	【大学院教育】 博士後期課程に在籍する学生の研究については、研究科間あるいは専攻間の学問領域を横断的（学際的）に融合した研究プロジェクトへ自由に参加できる体制を整備する。		良好	
教育方法に関する目標 学士力向上を達成するため、授業や学生指導において、教育効果の高い方法を導入する。大学院では、従来の個別的な研究指導を堅持しつつ、異分野融合や国際化に対応した教育体制を整備・充実させる。			おおむね良好	
1-1-3-1	【学士教育】 科目ごとの講義内容・到達水準を明確化し、単位制度を実質化するため、授業時間外学習を促進する。さらに、学生に、学習習慣と学習法を獲得させるため、シラバスを充実する。		おおむね良好	
1-1-3-2	【学士教育】 講義支援体制の充実の一環として、TA、RAの役割、任務を検証し、適切な配置、オリエンテーション等を充実させ、より積極的な活用を推進する。		良好	
1-1-3-3	【学士教育】 授業とシラバスの連動、講義資料の配付、予習・復習の支援、授業時間外学習の指導等にe-Learningを活用するなど教育方法を改善するため、ティーチング・テクノロジーの開発・導入を行う。		おおむね良好	
1-1-3-4	【学士教育】 教育内容の質保証が可能な教材開発を実践する。取り組みの一環として、教育内容の質を向上させ、授業科目の標準化・共通化を進めるため、岡山大学オリジナル教科書を編纂し、各授業において活用する。		良好	
1-1-3-5	【大学院教育】 異分野融合型の教育も考慮に入れて、各専攻の授業内容の精選と見直しを進め、コア・カリキュラムを確立すると同時に、学生が習得すべき基準及び到達すべき学習成果を明確にする。		良好	
1-1-3-6	【大学院教育】 教育指導ツールの開発と導入を行い、学生指導体制をより一層充実させる。		おおむね良好	
1-1-3-7	【大学院教育】 教育効果を検討し、効果が期待できるものについては、コースワーク主体の教育を実施する。その場合には、岡山大学オリジナル教科書を始めとして大学院教育用教材の開発を積極的に推進する。		おおむね良好	
1-1-3-8	【大学院教育】 英語によるコース授業を展開するなど、大学院教育における教育方法や教授内容の国際化を一層推進する。		おおむね良好	
成績評価に関する目標 成績評価基準の検証を行い、学習到達度に力点を置き、厳格な成績評価を実施し、教育の質を保証する。			良好	
1-1-4-1	GPA等の客観的成績評価手法を取り入れ、学習到達度評価を厳格に実施する。		非常に優れている	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	1-1-4-2	入試成績と入学後の成績の追跡調査、卒業時の成績、企業等が求める学生の能力に関するアンケート調査等を活用して、教育効果を適切に評価するための方法を改善・開発する。	おおむね良好	
② 教育の実施体制等に関する目標			良好	
教職員配置に関する目標 岡山大学の基本的教育目標を達成するため、また、新たな学問の展開や社会状況に則した教育を行うため、適切な教職員配置を行う。			良好	
○	1-2-1-1	岡山大学の教育を戦略的にリードする教員を養成し、彼らが教育改善において重要な役割を担える体制を整備する。また、教育・学生支援体制の更なる充実のため、事務職員の質向上を図ると同時に、職員配置を戦略的に行う。	良好	優れた点
	1-2-1-2	アウトカム基盤型教育の実践・強化の推進並びに高等教育等に関する情報収集、研究開発、企画及び教育改革に関する調査・研究を行う新たな教育研究組織「高等教育開発推進機構」にて、教育課程・教育方法の検証及びその全学的導入を支援する。	良好	特色ある点
	1-2-1-3	教養教育の更なる発展、リメディアル教育、初年次教育などへの対応を可能とする教員体制を整備する。	おおむね良好	
教育環境に関する目標 学生の学習意欲を更に向上させるため、魅力あるキャンパスを目指して、教育環境を整備・充実させる。			良好	
	1-2-2-1	電子図書館機能の充実、安全安心なキャンパス内情報ネットワークの高度化、e-Learning等の情報システムの整備等による情報処理教育の強化及び自学自習のための環境整備を促進する。	良好	
教育の質の改善に関する目標 教員の教育資質向上のため、教育活動を適切に評価するとともに、教育サービスの受容者である学生の教育満足度を検証し、その結果を教育改善に反映できるシステムを構築する。			良好	
○	1-2-3-1	教育活動を適切に評価するシステムの検証を推進し、教員活動評価に反映させ、教員の教育改善に対する高いインセンティブを引き出せる教育評価システムを構築する。	おおむね良好	
	1-2-3-2	21世紀の重要課題の一つである、ESD (Education for Sustainable Development) を授業科目に取り込むなど、新たな時代に対応した教育内容の改善を行う。	良好	優れた点
	1-2-3-3	第三期中期目標期間からの開始に向けて、大学のグローバル化及びアウトカムに重点を置く教育を推進するため、学事暦、教育方法・内容等を見直す。特に、ナンバリングの導入や全授業科目の総点検に取り組むとともに、平成28年度からの全学60分授業の導入やクォーター制の導入に向けて教育システムの再構築を行う。	良好	特色ある点
医療教育の実施に関する目標 新しい医療教育としてのチーム医療教育、地域医療教育の体制を整備する。			おおむね良好	
	1-2-4-1	医師、歯科医師、看護師、薬剤師等の学部、卒業後研修、その後の後期研修及び大学院の各課程における医療教育の実施状況を点検・評価し、より有機的な教育プログラムを企画・立案するとともに、新しい医療教育としてのチーム医療教育、地域医療教育を企画・実施する。	おおむね良好	特色ある点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
生活支援に関する目標 活力あふれる学生生活を送らせるため、正課の学習支援だけでなく、健康面や経済面での生活支援、さらには課外活動支援、キャンパス環境整備等を充実させる。		良好	
1-3-1-1	健康管理や学生生活における具体的な相談や指導に対応するため、生活支援体制を更に充実させる。また、施設・設備のバリアフリー化、快適なキャンパス環境整備、課外活動施設を拡充する。	おおむね良好	
1-3-1-2	成績優秀者に対する奨学金制度、生活困窮者に対する授業料免除制度だけでなく、学生が勤務できる学内業務の開放等、学生が学内において勉学と同時に所得を確保する機会を設けるなどの経済的支援体制を整備する。	良好	優れた点
1-3-1-3	外国人留学生・研究員宿泊施設など国際交流のための施設を整備する。	良好	優れた点
就職支援に関する目標 社会の経済状況や学生の就職状況などの情報把握並びに分析を行い、総合的かつ戦略的に活動できる就職支援体制を充実させる。		おおむね良好	
1-3-2-1	卒業後の進路や就職状況を分析し、高い水準の就職率を達成できる就職支援体制を強化する。	おおむね良好	
1-3-2-2	就職支援の専門家及び専門家の補助者として活動できる学生ボランティア並びに就職活動を支援する学生リーダーを育成し、継続可能なピアサポート体制を整備し、学生自身が課題解決能力を身につける教育活動の場としても活用する。	おおむね良好	特色ある点
1-3-2-3	雇用状況に配慮しつつ、大学院生の多様なキャリアパスを考慮した就職支援体制を強化する。	おおむね良好	
1-3-2-4	卒業生及び在学生との、情報並びに人的交流ネットワークを構築し、これを就職支援に活用可能なシステムとして整備する。	おおむね良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		良好	
目指すべき研究の方向と水準に関する目標 特色ある学術領域の研究を一層推進して深化させるとともに、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤とした学際・融合領域における新分野創成を目指す。なお、特有の分野では、我が国有数の活力ある学術研究拠点を構築する。		良好	
2-1-1-1	総合大学院制の利点を活かし、学問の進展に普遍的な重要性をもつ基礎研究を多面的な視座から推進するとともに、社会的重要性の高い研究課題、異分野融合研究、国際的に卓越した水準にある先端研究分野やそれと同等の水準の達成が期待される研究分野の研究を重点的に推進する。	良好	優れた点
2-1-1-2	先導的研究を推進する若手研究者を育成するため、支援システムを充実する。	良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
成果の社会への還元等に関する目標 大学において創出された研究成果は社会共有の財産であるとの観点から、岡山大学の研究成果を広く社会に積極的に還元し、地域社会や国際社会の発展および我が国の産業の振興に貢献する。		良好	
2-1-2-1	中国地域における新たな産学官連携支援システムを確立する。	良好	
2-1-2-2	研究成果の社会還元を機動的かつ効果的に行うため、企業等の外部機関との組織対応型連携研究を推進するとともに、地域中小企業との連携を拡大する。	良好	優れた点
2-1-2-3	研究成果による国際貢献戦略を構築するとともに、関係機関等と連携しつつ、国際特許を確保し、展開する。また、知的財産の創造、保護、活用に係る組織の機能を強化し、効果的な知的創造サイクルを構築する。	良好	特色ある点
② 研究実施体制等の整備に関する目標		おおむね良好	
柔軟な研究体制の確立に関する目標 異分野融合や学際的な新分野創出に資するため、学内部局等の枠を超えた研究を推進するための仕組みを構築する。		良好	
2-2-1-1	岡山大学として重点的に取り組む研究課題・領域を「全学的プロジェクト研究」として教育研究プログラム戦略本部の下に位置づけ、戦略的、効果的に推進・支援する体制を強化する。	良好	優れた点
2-2-1-2	教員が担う業務の効率化を進めるとともに、岡山大学として重点的に取り組む研究領域に研究者等を集中配置するなど、連携等が必要に応じて容易に行える仕組みや体制を整備する。	良好	
優秀な研究人材の確保・育成に関する目標 優秀な若手研究者の確保及び育成制度を充実させるとともに、女性研究者、外国人研究者等多様な人材が活躍しやすい環境を整備する。		おおむね良好	
2-2-2-1	研究者の確保にあたっては重点研究領域での採用を優先するとともに、国際的に人材を集める。	良好	
2-2-2-2	優秀な研究者を確保するため、テニユア・トラック制を導入する等、柔軟な人事制度を促進する。	良好	優れた点
2-2-2-3	育児・介護等にあたる研究者のニーズを踏まえ、サポートグループ等による研究サポート体制を構築するとともに、保育施設の整備等を促進する。	おおむね良好	
2-2-2-4	外国人研究者のニーズを踏まえ、研究をサポートする体制を構築する。	おおむね良好	特色ある点
外部資金の獲得と研究資金の投入に関する目標 外部資金や競争的資金の獲得を大学として戦略的に推進するとともに、研究資金は研究内容や評価に基づいて効果的かつ戦略的に投入する。		おおむね良好	
2-2-3-1	外部資金の更なる獲得のため大学としての支援体制を強化する。特に若手研究者の外部資金獲得を積極的に支援する。	おおむね良好	
2-2-3-2	「全学的プロジェクト研究」を目指す学内プロジェクト研究について、外部専門家を交えて、研究の方向性等を明確化し、資金を戦略的に投入する。	良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
研究に必要な設備等の活用・整備に関する目標 各学術分野の研究に必要な基盤設備等の整備や有効活用に向けて、研究スペースの全学一元管理を推進するとともに、個々の研究者の能力や組織の機能が最大限に発揮される研究環境を整備する。		おおむね良好	
2-2-4-1	研究活力の増進を図るため、教育研究プログラム戦略本部が主体となり、研究環境（施設、設備、機器等）の整備を全学的見地から充実させるとともに、研究スペース配分管理体制を構築し、効率的に活用する。	良好	
2-2-4-2	研究活動に必要な学術刊行物、電子ジャーナル及び二次データベース等の学術情報、並びにそれらと利用者を結ぶ学術情報ネットワークを全学管理の下で体系的、計画的に整備する。	おおむね良好	
研究水準・成果の検証等に関する目標 個々の研究者及び研究組織についての検証・評価による研究水準の更なる向上とともに、大学として重点的に取り組んでいる分野について、研究活動とその成果を的確に検証・評価する体制を強化し、研究活動の質的改善や研究水準を向上させる。		おおむね良好	
2-2-5-1	岡山大学が重点的に取り組むとした「全学的プロジェクト研究」の評価については、外部委員を含む評価委員会により、客観的な視点から評価を実施する。また、「全学的プロジェクト研究」を目指す学内プロジェクト研究についても、外部専門家による評価を含めた評価システムを構築し、研究の方向性を明確化する。そのため、外部資金の獲得額、論文の質、量等評価指標を整理し、研究者や研究組織の研究水準・成果に関するデータベースを構築する。	おおむね良好	
(Ⅲ) その他の目標		おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
地域社会との連携に関する目標 地方公共団体、経済団体等との連携を深め、中核的な学術拠点として岡山大学からの提言等を行う。また、大学発ベンチャーへの支援等地域経済の発展に資する。		良好	
3-1-1-1	地域社会の持続的発展のため、地方公共団体、企業等との連携協力を通じて、大学の知恵を社会へ移転するとともに、大学発ベンチャー起業支援策を充実させる。	良好	
3-1-1-2	産学官連携戦略展開事業及び大学コンソーシアム岡山での大学間協定事業から発展した大学間連携を一層推進する。	良好	優れた点
社会貢献に関する目標 岡山大学の知恵を地域社会へ生かすため、市民向け講座等、社会との関係を一層推進し、社会人教育の体制を強化する。		おおむね良好	
3-1-2-1	岡山大学の研究情報の提供、科学を易しく紹介するサイエンスカフェの開催、地域に関する研究等、本学が主体性を持った社会貢献事業を多面的に展開する。	おおむね良好	特色ある点
3-1-2-2	リカレント教育の拠点として、社会人の再学習需要に適切に対応し、公開講座、科目等履修生等の制度を活用して地域に貢献する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 国際化に関する目標		良好	
国際交流・協力に関する目標 岡山大学が有する教育研究の強みを最大限活かすとともに、アジアをはじめ各地域の状況に柔軟に対応した質の高い国際交流・国際貢献を実施する。		非常に優れている	
3-2-1-1	岡山大学が保有する知的資源を国際交流・国際貢献のためにどのように活用するかを戦略的に検討するための組織体制を整備し、国際化を推進するための施策を実施する。	非常に優れている	優れた点
3-2-1-2	優秀な学生を獲得するため、交流協定締結大学との信頼をもとに重点的拠点大学を厳選する。また新たに、優秀な大学と協定を締結する。海外事務所の更なる展開を図るとともに、優秀な留学生を積極的に受け入れると同時に、岡山大学学生の海外留学を促進する。	良好	
外国人研究者の採用に関する目標 岡山大学が進める異分野融合研究には多様性が重要であるとの視点から、外国人研究者の採用を積極的に進める。		おおむね良好	
3-2-2-1	研究者募集にあたっては、国際的な人材獲得方法の見直し、重点分野を設ける等により外国人研究者の雇用を促進する。	おおむね良好	特色ある点
国際競争力の強化に関する目標 徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引するための取組を進める。		良好	
○ 3-2-3-1	スーパーグローバル大学創成支援「PRIMEプログラム：世界で活躍できる実践人を育成する！」事業の目標達成に向けて、次の取組を行う。 ・学生が異分野、異社会、異文化の経験により、現場で必要な、会話力、創造力、行動力、統率力、決断力を涵養し、実践の現場で適切な判断をくだすことができる能力（グローバル実践知）を修得するため、グローバル実践型教育として、「教育再生」「医療」「技術・環境」「まちづくり」の4領域に関する授業科目を8科目試行する。 また、海外連携によるプログラムでは、ブリティッシュコロンビア大学との連携によるCo-opプログラムとして、2名の留学生を受け入れ、日本人学生（延べ6名）との合同により林業関係機関（企業5社、行政1機関）へインターンシップを実施し、林業をフィールドとした体系的かつ実践的教育プログラムを試行する。 ・グローバル人材育成特別コース（語学力や国際的教養を身につけ、グローバル社会でリーダーシップを発揮し、未来を切り開いていける人財を育成することを目的に、海外語学研修、海外留学・海外インターンシップ、異文化理解、日本文化理解、コミュニケーション能力開発、英語による専門分野の講義等のコース専用授業科目を開講する全学部生対象の副専攻コース）の定員50名を100名に倍増する。 ・医療工学分野の強化等の取組として生命医用工学専攻、応用化学専攻を設置し、医工融合の教育研究を進める。	良好	特色ある点

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	<p>新たな教育研究組織「高等教育開発推進機構」において、教育課程・教育方法の検証及びその全学的導入を支援し、大学のグローバル化及びアウトカムに重点を置く教育を推進する計画を進めている。教養教育の理念及び改革の要点を定めた教養教育改革の基本方針を策定し、平成28年度からの全学60分授業・4学期制の導入に向け学事暦、教育方法・内容等を見直しを進めており、60分授業・4学期制を活かしたカリキュラム提案へ経費支援をするとともに全学ファカルティ・ディベロップメント研修会で新たな教育方法の普及を図るなど、全学教育システムの再構築に着手している。</p>
(2)	<p>「PRIMEプログラム:世界で活躍できる実践人を育成する!」構想の実現に向け、グローバル実践型教育の試行やグローバル人材育成特別コースの定員拡充、医療工学分野の強化等を推進する計画を進めている。平成27年度にグローバル実践型教育の一環として12科目の実践型授業を実施したほか、ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)のCo-opプログラムとして同大学の学生2名を受け入れ、岡山大学の学生とともに県内の林業関係機関等において森林利用グローバルインターンシップを実施している。また、グローバルに活躍する高度な人材育成を推進するため、グローバル人材育成特別コースの定員を50名から100名に拡充したほか、医療工学分野の強化のため、自然科学研究科を改組し、生命医用工学専攻と応用化学専攻を設置している。</p>